

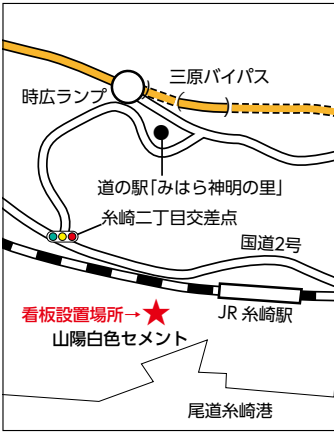
「おいしい！三原タコ」巨大看板登場



▲設置した大型観光看板

県が進める観光キャンペーン「おいしい！広島県」の市・地元企業との連携企画として、大型観光看板を制作し設置しました。

設置場所は、山陽白色セメント(糸崎南一丁目)の工場内にある原料予熱装置のタワー地上38mの場所で、大きさは縦9m、横9mです。看板は、同企画の中で県内最大で、「おいしい！三原タコ」、「ようこそ！三原へ」と文字を入れ、市の東の玄関口として観光客を出



迎えます。

看板の設置場所を無償で提供するなど、設置に協力した山陽白色セメントは、国内唯一のホワイトセメントメーカーで、道の駅「みはら神明の里」のエントランスホール内にある、希望の白ダルマを今年3月に

寄贈しています。同社の花田裕志社長は、「道の駅や国道2号、電車の中などから眺めてもらい、三原のPRにつながればと考えています」と語り、今後の展開に期待を寄せました。

名誉市民・新藤監督追悼企画 みはら映画祭を開催

先月1日・2日、本市の名誉市民であり、昨年5月に100歳で亡くなられた新藤兼人監督をしのいで、みはら映画祭を開催しました。

映画祭では、本市を舞台とした「らくがき黒板」や「裸の島」、最後の作品となった「一枚のハガキ」など5作品を上映し、両日で約800人が来場しました。2日には、監督の孫で自身も映画監

督の新藤 風さんがゲストトークに訪れ、「祖父にとって、裸の島という映画の存在はとても大きかったと思います。三原に足を向けて寝ることはできないと言っていました」などと思い出を振り返りました。



▲展示会のようす



▲新藤監督との思い出を語る孫の新藤 風さん。左は実行委員会の中野義孝さん

追悼記念誌「あの夏の思い出―裸の島 永遠に―」販売中!

市民映画祭開催実行委員会では、新藤監督の追悼記念誌を製作し販売しています。過去の映画祭での講演や、おとし行なったインタビューなど、新藤監督の言葉を会話形式で収録しています。また、市内のロケ風景や撮影を支えた市民の皆さんの写真なども掲載しています。

記念誌はA4版の32ページ。1部500円(税込み)、限定1,000部で観光文化課(市役所本庁5階)で販売しています。

問い合わせ先 市民映画祭開催実行委員会事務局(観光文化課内) 0848・67・6015)

